建設経済常任委員会

平成20年12月15日（月曜日）

付議事件

《付託議案》

議案第 1号 平成20年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項

《付託陳情》

陳情第 7号 「協同労働の協同組合法（仮称）」の速やかな制定を求める意見書に関する陳情

出席委員（6名）

委員長	嶋田 哲 純	副委員長	滑 川 公 英
委員	嶋田 茂 樹	委員	平 野 浩
委員	林 七 巳	委員	平 野 忠 作

欠席委員（なし）

委員外出席者（1名）

議長 明智 忠 直

説明のため出席した者（21名）

副市長	鈴木 正 美	商工観光課長	神 原 房 雄
農水産課長	堀 江 隆 夫	建設課長	米 本 壽 一
都市整備課長	島 田 和 幸	下水道課長	中 野 博 之
農業委員会 事務局 長	小 田 雄 治	その他担当 職員	14名

事務局職員出席者

事務局 長	宮 本 英 一	事務局 次 長	石 毛 健 一

主 查 穴 澤 昭 和

開会 午前10時 0分

○委員長（嶋田哲純） おはようございます。

大変お忙しい中、ご苦労さまでございます。

ここで、委員会を開会する前に、あらかじめご了承願います。

議会だより取材のため、この後、職員が委員会室内の写真撮影を行いますので、ご了承願います。

ただいまの出席委員は6名、委員会は成立いたしました。

それでは、建設経済常任委員会を開会いたします。

なお、市民より傍聴したい趣旨の申し出があり、これを許可いたしましたので、ご了承願います。

しばらく休憩いたします。委員の皆さんは、そのままお待ちください。

休憩 午前10時 1分

（傍聴者入室）

再開 午前10時 1分

○委員長（嶋田哲純） 休憩前に引き続き会議を開きます。

本日、明智議長にご出席いただいておりますので、ごあいさつをお願い申し上げます。

○議長（明智忠直） 皆さん、おはようございます。

建設経済常任委員会の委員会ということで、大変お忙しいところご苦労さまでございます。

きょうはだいぶ冷え込んでまいりまして、いよいよ冬本番、そんなような感じがいたしますが、今年も余すところあと半月、本当に1年もあっという間に終わろうとしておりますが、第4回の最後の締めくくりの委員会ということでもあります。付託案件は少ないわけでありませけれども、いろんな報告もあると思います。十分にご審議いただきまして、よろしく願い申し上げたいと思います。

本日、付託されました議案は補正予算議案の1件、そしてまた陳情の1件ということになりますので、よろしくご審議のほどをお願い申し上げまして、ごあいさつに代える次第でございます。ご苦労さまでございます。

○委員長（嶋田哲純） ありがとうございます。

議案説明のため、副市長、担当課長及び職員の出席を求めました。

それでは、執行部を代表して、鈴木副市長よりごあいさつをお願いいたします。

○副市長（鈴木正美） おはようございます。

本日は建設経済常任委員会ということで、委員の皆様、また明智議長にはご多忙の中、ご出席いただきまして、大変ご苦勞さまでございます。

本日の委員会に執行部のほうからご審議をお願いいたします案件は、議案第1号、平成20年度旭市一般会計補正予算の所管事項分に係るもの1件でございます。執行部といたしましては、委員の皆様方のご質問に簡潔に答弁するよう努めてまいりますので、どうぞよろしくご審議くださいますようお願いいたしまして、ごあいさつとさせていただきます。

どうぞよろしくをお願いいたします。

○委員長（嶋田哲純） ありがとうございます。

議案の説明、質疑

○委員長（嶋田哲純） ただいまから本委員会に付託されました議案の審査を行います。

去る12月8日の本会議におきまして、本委員会に付託されました議案は、議案第1号、平成20年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項についての1議案であります。

これより付託議案の審査を行います。

議案第1号中の所管事項について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

農水産課長。

○農水産課長（堀江隆夫） それじゃ、すみません、農水産課関係の補正予算につきましてご説明させていただきます。

予算書の22ページのほうの歳出のところでご説明させていただきます。22ページのほうをお目通しいただきたいと思っております。

6款農林水産業費、1項農業費、3目の農業振興費につきましてご説明させていただきます。説明欄のほうに順次従いまして、説明させていただきます。

説明欄1の施設園芸燃油高騰対策事業の関係でございます。

1,330万8,000円でございますが、これにつきましては、最近の燃油につきましては、一時期から比べますと大きく下落しておりますけれども、千葉県におきまして、9月の補正予算につきましては原油高騰対策として、施設園芸農家の省エネルギー対策につきましてはの支援策を創設しております。市におきましてもこの事業に取り組み、施設園芸農家への支援をさせていただくものでございます。

具体的内容につきましては、省エネ型暖房機及びヒートポンプの導入につきましては、県が認定農業者には4分の1、3戸以上の生産団体には3分の1以内の補助金を用意していただいております。対象としましては、野菜、花卉、果樹、こういう施設園芸等に取り組みます農業者を対象としております。省エネ型暖房機につきましては、燃油使用料の10%以上を低減する目標、これを掲げる農業者ということになっております。

なお、今回のこの補助事業につきましては、県補助金に併せまして、市町村予算の上乗せ5%をさせていただきまして、認定農業者の施設整備に30%の補助をしたい、そういう内容の補正予算でございます。

なお、県の事業としましては、イチゴの栽培農家、これには今回支援がないということでございます。ただ、本市におきましては、イチゴは県内第1位の実は産出額を誇っている市でございます。県内の実は生産農家としましては、割合としましては産出額28%を占めております。127名がいます、第1の産地というようなことで、この施設園芸、イチゴの農家につきましても、実は市の中におきまして、他の品目と同様に市単独としまして30%の支援を行いたい、そういう中身でございます。

本予算につきましては、28戸の農家で取り組みを今予定させていただいております。省エネ型暖房機につきましては28台、ヒートポンプにつきましては13台を導入する予定でございます。全体事業費につきましては4,661万円、県費補助金につきましては1,033万6,000円を予定しております。なお、市の補助金につきましては、先ほど言いました5%、あるいはイチゴの農家につきましては30%の補助金等で、全体としましては297万2,000円を措置させていただきたいというふうに考えております。なお、イチゴ栽培農家の暖房機につきましては、3台を予定しております。

続きまして、説明欄2の農業活性化推進事業300万円でございます。

本事業につきましては、旭市担い手育成相互支援協議会に補助させていただきまして、農業経営者の研修会及びフォーラム等の開催、あるいは旭市の農水産物等の産地紹介としまし

て見本市、商談会等の開催を予定させていただくものでございます。なお、見本市、商談会開催につきましては、来年2月20日にいいおかユートピアセンターを会場としまして開催したいというふうに、現在計画しております。

なお、本予算につきましては、10ページの歳入にあります16款寄附金にありますように、農業費寄附金を活用するものであり、株式会社ブライトピック千葉のシザワ会長からの寄附を活用させていただきたいという中身でございます。

続きまして、説明欄3の農業経営基盤強化促進事業50万5,000円を説明させていただきます。

本予算につきましては、遊休農地解消対策事業としまして、県補助金25万円を活用させていただきながら、市の予算と一緒にしまして、遊休農地解消対策を実施させていただくものでございます。2005年、平成17年の統計によりますと、市内の農地5,287ヘクタール、そのうちの9.5%、実に505ヘクタールの農地が遊休農地という統計データもございます。こうした中で、本予算を活用しまして、1筆ごとの遊休農地の状況を把握するとともに、すべての農家を対象としました遊休農地の状況を調査、把握等をしてしまして、活用の希望あるいは遊休農地の有無、そういうものを調査させていただきまして、遊休農地解消に向けてのデータ作り等を行いたいという中身でございます。

以上で、農水産課関係の所管の補正予算につきましての説明を終わります。

○委員長（嶋田哲純） ほかにございませんか。

（発言する人なし）

○委員長（嶋田哲純） 担当課の説明は終わりました。

議案第1号中の所管事項について、質疑がありましたらお願いいたします。

ありませんか。

平野忠作委員。

○委員（平野忠作） ちょっとお聞きしますけれども、22ページの説明欄2ですか、農業活性化推進事業の中で、いいおかユートピアセンターで見本市の商談会が実施されるということなんですけれども、これは市場関係とか大手の食品、例えば大手スーパーとかいろいろあれがあると思いますけれども、どのような内容でこれは実施されるのでしょうか。分かりましたら、よろしくをお願いします。

○委員長（嶋田哲純） 平野忠作委員の質疑に対し、答弁を求めます。

農水産課長。

○農水産課長（堀江隆夫） ただいまのご質問でございますけれども、2月20日に、会場は飯岡のユートピアセンターを会場としまして、食に関しましての商談会的、あるいは展示会的なものを開催したいというふうに、今計画しております。平成19年につきましては、担い手関係の事業等を活用しまして、野菜を中心としました産地紹介を旭市の黄鶴で実施させていただきましてけれども、今回につきましては、野菜のみならずいろんな食、例えばお米、あるいは今回、水産にも入っていただくということで、水産、それと、やはり食ということで、食の中には花も相通ずるところがあるのかな。花、あるいは今回、畜産もいろんなブランド名の肉あるいは卵等がございます。旭市市内あるいは今回、ちばみどりと一緒にやっていただくということで、銚子、匝瑳にも入っていただきまして、やはり旭市が中心になりますけれども、食を一堂に集めて、産地の紹介をする。

主に来ていただくゲストとしましては、今、委員おっしゃいました市場の方々あるいはスーパー関係の方々、あるいは市内の飲食店を営んでいるの方々、あるいは学校給食等の栄養士の先生方、あるいは従業員関係、そういう食を商売等で使っていただく方々を主にゲストとして呼びたいというふうに考えております。今回、食の紹介と併せまして、セミナーも開催してみようということで、伊藤忠の野菜関係の販売部長にも来ていただきまして、セミナーを開催する予定で考えております。

そんなことで、旭市から食を、産地紹介をしようということで考えています。今、具体的に実行委員会で中身を詰めておりますけれども、最終的にはそういうゲストの方々と分けまして、最後1時間あるいは2時間程度、市民の方にも旭市の食を知っていただくということで、場合によっては即売的な形で、市民の方にも一般的に展示会を開放して見ていただきたいな、そういう思いも今、実行委員会で話が出ております。

以上です。

○委員長（嶋田哲純） ありがとうございます。

ほかにありませんか。

（発言する人なし）

○委員長（嶋田哲純） 特にないようですので、議案第1号中の所管事項の質疑を終わります。

以上で、付託議案についての質疑は終わりました。

議案の採決

○委員長（嶋田哲純） これより討論を省略して、議案の採決を行います。

議案第1号、平成20年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（嶋田哲純） 全員賛成。

よって、議案第1号は原案のとおり可決されました。

以上で本委員会に付託されました議案の審査は終了いたしました。

なお、委員長報告につきましては、委員長に一任願いたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（嶋田哲純） ご異議ないようでございますので、委員長報告は委員長一任とさせていただきます。

所管事項の報告

○委員長（嶋田哲純） 次に、所管事項の報告に入ります。

報告がある所管課は随時報告してください。

商工観光課長。

○商工観光課長（神原房雄） それでは、所管事業の報告をいたします。

長熊スポーツ公園の整備でございますが、長熊につきましては現在、釣り堀部分の工事を実施しておりまして、これから公園部分の工事に着手できる状況でございます。まず、釣り堀部分でございますけれども、土壌改良後の掘削、盛り土工事が終了しまして、現在は池に水を張りながら、栈橋の敷設を行っている状況でございます。

今後の予定でございますが、年内には栈橋の敷設を終了させまして、へらブナの放流を計画しております。敷設工事の進捗状況でございますが、予定といたしましては、12月19日にへらブナのほうの放流を、第1回をしたいというふうに思っております。年明け1月末までには、予定するへらブナにつきまして放流していきたい。4月からに合わせまして、いきたい。生き物ですので、暖かくなると移動ができませんので、1月中には入れていきたい。こ

のヘラブナの放流に伴いましては、2回の水質検査を実施しておりまして、改良剤による影響がないという結果を得ている状況でございます。

続きまして、公園部分の整備でございますが、11月20日に入札を実施しまして、11月27日に契約を締結してございます。公園部分の具体的な整備内容について申し上げますと、まず、野球場の部分の改修でございますが、バックネットにつきましては、建てかえではなく、ネットの部分の改修を予定しております。新規部分としましては、ダッグアウト2か所、防球ネット及び支柱の新設を予定しております。また、釣り堀側に面した駐車場等の整備のため、レフト側の防球ネットの角度を一部変更いたしまして、それと以前から課題のありました排水処理の問題につきましても、従来は東側の1か所の排水ますにて排水処理をしておりましたけれども、グラウンド全体の排水処理はできず、今までは水が停滞していた状況でございましたので、新たに2か所の排水部分を新設しまして、3か所から排水処理を行うというふうに考えております。

続きまして、ゲートボール場の整備でございますが、従来6面あったゲートボール場を2面として整備しまして、残り4面の部分については芝を張り、グラウンドゴルフ等スポーツ等にも使える形をとりたい。それから釣り大会のときには大勢の方が参加しますので、駐車場も必要だということの中で、駐車場にも使えるように、多目的に利用できるように整備していきたいというふうに思っています。このゲートボール場の整備につきましては、地元、ゲートボールをやっている方等々と協議を行って、了承していただいているところでございます。

それから、駐車場の整備でございますが、従来は管理事務所の前と道路沿いに駐車するというところでございましたけれども、それでは60台から80台前後の駐車場スペースということですので、釣り大会等の際に野球場を開放しての対応をしてきたわけですが、新たに舗装部分の駐車場としまして120台、多目的部分として50台、合わせて170台の駐車ができるという形をとっております。

それから、トイレにつきましては、従来の事務所側に設置してあるトイレの改修をいたします。そのほかに新たに釣り堀側と公園側両方から出入りできるユニバーサルトイレということで、そういったトイレにつきましても設置したい、設置するというふうに考えております。

そのほかの工事といたしましては、公園内の遊具の改修工事、施設全体のフェンスの敷設工事などを実施しまして、3月までの年度内の完成に向け整備してまいります。

この今申し上げた内容につきましては、きょうこれから視察があるということですので、現場で詳しく説明したいというふうに思っています。

以上です。

○委員長（嶋田哲純） ありがとうございます。

ほかにございませんか。

建設課長。

○建設課長（米本壽一） 建設課からの所管事項の報告は、1点にさせていただきたいと思えます。中央病院のアクセス道の用地の購入状況の報告でございます。

中央病院のアクセス道は、東西線と南北線合わせて62名の地権者がおります。東西線は21年度、来年度に完成予定、南北線は22年度、再来年に完成予定、こんな状況でありますけれども、合わせて62名の地権者がおります。既に契約を済んでおりますのは52名、残り10名でございます。この10名の理由、なぜ今の状況なのかということを上申上げたいと思えます。

まず一つ目は、相続で今交渉している。相続の手続を行っているという方が4人です。これが一番多くございます。それから代替地を求められておまして、それを探しているということのものが3人です。それから金額にもうこれは不満だという方が1人います。それからこれは理由としてはどうかと思えますけれども、最後に協力すると、協力しないではない、最後に協力するからなというのが1人です。非常に厳しい、我々にとって非常に厳しい方が1人。これが10名の内訳でございます。

以上でございます。

○委員長（嶋田哲純） 農水産課長。

○農水産課長（堀江隆夫） 農水産課から、2点につきましてご報告等をさせていただきます。

1点目につきましては、お手元の資料の中に燃油・肥料高騰対応緊急対策事業、国の事業でございますけれども、資料に基づきまして説明させていただきます。

ご承知のように、実は国のほうでは補正予算の中で、農業関係につきましてこの燃油・肥料の高騰対策、500億円を確保していただいております。秋口に相当燃油が高くなった、あるいは化学肥料が7月ぐらいからもう高くなっている。そんなことで、緊急に対応する事業でございます。

ここの事業の概要としましては、ここにありますように、施設園芸用の燃油の使用料あるいは化学肥料の施肥料、これを2割以上低減する農業者グループ、農業者ということじゃなくて、農業者のグループということで、国は理解していると。ですから3人程度まとまって

グループをつくっていただいて、そのグループで国に対して申請するということになっております。もちろん申請は、市を経由しまして、県のほうに上げながら、国のほうへ届くということでございます。これらの農業者グループに対しまして、燃料費や肥料の増加分の7割を助成するというものでございます。

イメージ的にはここに上のほうに書いてあります、前年度の燃油費に比べまして、今年は上がったと。上がった分について2割、いろんな努力をするよと。努力というのは、例えばいろんなチェックシートで適切な管理をしたとか、なるべく農業者が使いやすいような形でこの20%削減については、国はご理解していただけるような感じだということで、説明会で聞いております。この2割減らした分についての残りの部分につきまして、70%を国が支援するというものでございます。それと、肥料につきましては、燃油と同じような考え方で2割削減した、そういうものにつきまして、国が残りの分について7割補てんしますということでございます。

問題は、実はこの中段にあります事業内容あるいは注意事項でございます。燃油対策としましては、20年の秋、具体的には本年10月から来年4月までの間に施設園芸に使った燃油で、現在、実は燃油、A重油が、きょうちょっと調べましたら62円というようなことで、相当下がっておるといようなことで聞いています。そんなことで、ここに書いてあります、昨年の基準平均単価が89円20銭ということで、これを下回っておりますので、現実的にはこの制度というのは対応が、今の時点では難しいのかな。ただ、来年になって、急に上がったときに対して準備をしておくよとというよなことで、国のほうからも言われています。そんなことで、現時点ではちょっと使えないよな制度でありますけれども、89円20銭、これを上回った場合についてはこういう制度があるということでございます。

それと、肥料の対応でございます。化学肥料につきましては、上がったきりで、なかなか下がっておりません。平成20年の肥料年度ということで、本年7月から来年6月、これに化学肥料を購入して、期間内に作付を開始した作物、こういうものの肥料費が該当になります。ただし、今年6月に予約注文しまして、7月、8月にもう入れたよというものは対象にならないということでございます。

もう一つ、この肥料対策の中で、一番農家の方に我々はなかなか説明しづらいんですけども、肥料対策につきましては、お米を作っている農家、水田を所有している農家につきましては、20年の水田の生産調整を達成している者と。あるいはもし達成していなくても、21年の生産調整に達成を確約するという方であれば、これはこの事業に乗れると。逆に言えば、

今年生産調整をやっていない、あるいは来年もやる予定がないよという方は、肥料対策については乗れないということでございます。そんなことで、国のほうでの施策が作られております。

肥料対策につきましては、なるべく早く農業者の方に情報をおつなぎしようということで、既に認定農業者には郵送等で送ってございます。ただ、今回、認定農業者だけでないということですので、すべての農業者の方には概要のチラシ等を送りながら、申請の方法等につきまして詳しく説明させていただきたいというふうに考えております。

また、燃油高騰につきましては、現時点ではちょっと対応がなかなか農業者は難しいだろうと。かといって実は燃油あるいは肥料も、1月末までに申請書、計画書を提出するということになっております。燃油対策につきましては1月末辺りの燃油価格を一つ参考にしながら、適切に農業者の方に、その時期を見計らって指導していきたい。ただ、情報としては流していきたいというふうに考えております。

以上で、燃油あるいは肥料の高騰対策につきましての資料に基づいての説明を終わります。

もう1点、資料等はございませんけれども、実は資金面での関係でございます。

平成21年度まで、スーパーL資金、公庫資金等が実は現在、無利子になっております。個人で1億円、法人で3億円。すべて個人1億円、法人3億円まで無利子化ということであったわけですが、今回、使う方が相当多くなってきた。無利子枠も、実は底をついてきました。そんな形で、ここの無利子枠につきましては国庫の補助事業、この補助事業を使った補助金残については、実は無利子化資金の対象外というふうな措置をこの秋からとらせていただきたいと。

要は国の補助金が出たものの残りについては、利子をいただきながら、今までどおり融資はしますけれども、利子が付いてくるということでございます。ただ、11月までに貸し付け実行された、あるいは決定された方についてはこのまま無利子でいきますけれども、今後については国の補助金を使うと無利子資金が使えないという、そういう形になる。ただ、融資は今までどおり行います。

それと、もう1点、農林漁業のセーフティーネット資金というようなことで、やはり公庫資金の中で、今、肥料の高騰、いろんな資材が高騰しております。そんなことで、平成20年11月から21年3月まで、この間に借り入れたものにつきましては300万円まで、これを上限としまして、実質無利子資金を公庫のほうで融資をしております。いろんな中身等もありますけれども、国のほうでは300万円以下、あるいは畜産経営等につきましては300万円では

ちょっとどうだいというのがあります。そういうことで、実は畜産経営等につきましては、年間の経営費の12分の3、3か月分の金額、そういうものにつきまして、実は融資をするという制度もございます。そんなことで、資金面につきましても、農業者の支援をバックアップしていきたい、そういうふうを考えております。

農水産課からは以上でございます。

○委員長（嶋田哲純） どうもありがとうございました。

下水道課長。

○下水道課長（中野博之） 下水道課からは、今年度の工事の執行状況につきましてご報告いたします。

今年度に予定いたしました、二袋地先2.6ヘクタールの面整備工事及び昨年度に面整備工事を行いました東町・網戸地先の道路舗装の本復旧工事につきましては、すべて発注済みでありまして、現在、工期内の完成を目指して工事中であります。いずれも年度内に完成予定であります。

以上でございます。

○委員長（嶋田哲純） どうもありがとうございました。

ほかにございませんか。

（発言する人なし）

○委員長（嶋田哲純） それでは、所管事項の報告でございますが、何かお聞きしたいことがありましたらお願いいたします。

滑川公英委員。

○委員（滑川公英） 何点かお聞きしたいと思います。

最初に、長熊ですけれども、12月19日からヘラブナの放流が始まる。1月中に終わると言っていますけれども、実際にはどのくらいのトン数で、何回ぐらいに分けてやるのか。

それと、建設課については、10月に何か入札中止になったということを聞いておりますけれども、その経過と結果と、その後どうなっておるか、この2点をお聞きしたいと思います。

あと、農水につきましては、この前、9月議会にも申し上げたんですけれども、今回、10月から融資につきまして、日本政策金融公庫ということになって、そのときに信用と、能力と、それから施設担保でこれからは融資を行うというような方向で答弁をいただきました。そして私も、担当の課長と係の方が家へ見えられまして、今後ともそういうことをやっていくということで明言されておりますので、それに対して農水としては、旭市の農業者に対し

てはどのようにアピールしていくのか。黙っていたら、多分、担保がなかったら借りられないと思っている方がほとんどだと思うんです。その辺のことをどうするのかの三つについて、ちょっとお聞きしたいと思います。

○委員長（嶋田哲純） 滑川公英委員の質問に対し、答弁を求めます。

商工観光課長。

○商工観光課長（神原房雄） 長熊へ放流するヘラブナの総量ですが、これにつきましては15トンを用意しております。先ほども申し上げましたが、12月19日に1回目という話をしました。本来であれば12月19日に4トンを入れる予定でありましたけれども、実はこれは、先ほど言いましたけれども、生き物ですので、業者についても、網を上げてみないとどれだけのものがあるか分からないという現状の中で、12月19日に4トンは難しいということの中で、12月24日にもう一度入れて、2回で4トンというふうになってきております。ですから1月末までに残り11トンを入れるわけですけれども、そういった生き物で難しい面もあるなどというふうに思っております。

○委員長（嶋田哲純） 次に、お願いいたします。

農水産課長。

○農水産課長（堀江隆夫） 委員の質問でありますけれども、日本政策金融公庫に今回なりまして、先ほど言いましたように、非常に公庫は担保を重要視いたします。国の金融機関でありますけれども、やはり担保というのは、これは第一だと。ただ、規模拡大していく上で、担保がないというと、これはなかなか規模拡大の障害になるという部分も、おっしゃるようにあります。

そんなことで、我々は前回の答弁をさせていただいた中で、今回、萬力Ⅱ期地区で大きな事業等やりまして、最初からもう担保がないなどというのは、我々も承知しておりました。そんな中で、金融公庫につきましては、今回設置した施設も担保にとっていただきたい。例えば、ビニールハウスも担保にとっていただきたい。ただ、なかなかそういうものというのは金額が少ないわけですけれども、そういうことと合わせまして、どうしてもない部分については、ひとつ経営者の能力の部分についてもということ。

ただ、どれだけ能力をとったかどうかは、我々もちょっと理解しにくいですが、これらにつきましては、委員言うように、一般の農業者に対してもということ、十分承知しております。研修の中で、場合によっては我々から、担保がなくても金融公庫は貸せますよという表現は、ちょっとなかなかしづらいんですけれども、例えば農業者の方から、研修会の

中で聞いていただいて、逆にこういう事例がありましたと。ぜひ我々は農業者の方に、担保がないけれども、おれを信用してくれよという、そういう自分を自己アピール等をするものも、資金を借りる際に実は必要になってきております。

そんなことで、何回か資金サイド、どういう形で貸せるかどうかを審査するか、その部分について農業者に研修してくださいよということで、公庫の方にもお話をさせていただいた経過等もございます。そういう研修の中で、うまい表現で、こういう事例もあったという、そういうあったということを認定農業者の方に説明しながら、公庫との融資関係について積極的に進めていきたい、そういうことでよろしくお願ひしたいと思ひます。

○委員長（嶋田哲純） どうもありがとうございます。

続いて、建設課長。

○建設課長（米本壽一） 10月、入札中止と、この件につきましてです。

これは、結果的には入札が終わりました。業者も決定いたしました。経過を申し上げます。10月の中止の理由は、これは談合情報があったと。談合情報がありまして、それを調査します。調査しまして、今度は同じエリアの中で同じメンバーで入札をやるということはありませんで、今度はエリアを拡大しまして、再び入札をやる。それで業者を決めた、こんな状況であります。もう一度言いますけれども、今現在はもう業者が決定してございます。

これは聞かれていませんけれども、参考なんですけれども、そのあとにでも、やはり中止が2件ありました。これは、一般競争入札で1社だけしか応札がなかったということの2件もありました。これは12月8日に1件は決定しまして、もう1件は最近の入札でありましたので、来月の入札ということになります。

以上でございます。

○委員長（嶋田哲純） ほかに質問ございませんか。

滑川公英委員。

○委員（滑川公英） 農水のほうですけれども、先ほどの金融のことなんですけれども、9月の答弁よりだいぶ引っ込んでいると思うんです。今、千葉県担当はコバヤシ課長とトリゴエさんという方ですけれども、本当にそれで千葉県でやっていただけますかというお話をしたら、今までも千葉県でやっている。だから、萬力Ⅱ区だけが特別ではないというような答えをいただいたんです。そういうことであれば、今言っていることは、ちょっと課長、逃げているんじゃないの。もうちょっと積極的に、本当に困っているんですよ。我々も10年以上も前からそういうことで、担保がないから駄目だと、そういうことは何人もいます。

ところが、今回うれしいことに、信用担保と施設担保ということで、こんなうれしいことはないんで、やはりそれは萬力Ⅱ区の中だけで占めてもらっては困るんです。やはり旭市全域に言ってもらったって構いませんから、それは、はっきり言って。ないしょではないんですよ、これはもう。既に課長が来て、担当者が来て、私にもそういう説明はしておりますから。アピールしてもらっても結構じゃないですか。突っ込んでいったら、千葉県では今までもやっていますというような答えですから。でも、実際にはここ数年だと思えます。そういう農業者というのは、ほとんど今までの全部け飛ばされているから、分かっていないのが現状ですから。もうちょっとはっきり、今度政策金融公庫がそういうことになりましたということで、アピールしていただきたいんです。

だって、実際には担保がないというのは、100万円とか200万円の金額じゃないんですから。何千万の単位になっているわけですから。それがないと苦しんでいるのは、もし規模拡大したくてもできないというのが今の農業者なんです。そういうことであれば、もうちょっと公明正大にアナウンスしていただきたいというのが私の考えなんです。ぜひお願いしたいと思います。くどいようですが。

○委員長（嶋田哲純） 答弁を求めます。

農水産課長。

○農水産課長（堀江隆夫） 今、委員言われましたように、もっともかと思えます。ただ、9月よりもちょっと発言が引っ込んだなという。実は言いたいのは、例えばこういう我々もペーパーを認定農業者、このスーパーL資金というのは認定農業者しか借りられません。そういう認定農業者の方に、絶えず実は資金情報というようなことで、チラシ等も送らせていただきます。この中に担保がなくてもいいよという、そういう文書は実は書けませんという、そういうことをご理解いただきたいと思えます。ただし、担保が必要だよと、そういうことも書きません。

というのは、担保がなくてもいいですよとやっちゃうと、融資して、逆に経営が悪くなるという方がいるわけなんです。公庫の職員とよく話をするんですけども、農業者の方が必要だからといって、むやみやたらに全部貸しちゃうと、逆に資金が経営を圧迫するという部分がございます。

そういうことで、審査会の中には我がほうの職員も入っていますので、そういう経営内容等を見ながら、担保がなくても、やはり規模拡大には、担保というのはない方もなかなか規模拡大を達成できませんので、そこについては今、委員言いましたように、研修会等の中で

資金借入れの実例というような中で、農業者の方に、担保がないとってあきらめないでということちょっと周知していきたいというふうに考えています。今言われた中身につきまして、ちょっと説明にならないかと思えますけれども。

○委員長（嶋田哲純） 滑川公英委員。

○委員（滑川公英） 誤解しないでください。担保がないんじゃないんです。担保が全然不足しているということなんです。担保がない農家はないと思うんです。担保があるけれども、担保が不足している人には貸し出しできませんよというのが今までの流れだったんですけども、今回、萬力Ⅱ区をやって、課長なんかは努力してやっていただいたことによって、多分担保不足については信用保証もしましょうよと。本来の金融の目的である信用保証、しましょうよ、そのほかに施設担保もとりましょうよという話ですから、私はないと言っているんじゃない。足りないと言っているんです、現実には。足りないけれども、貸しましょうよというのを明確に課長が答えているわけですから、窓口のトリゴエさんだけじゃないんですから、その辺はやはり腰を引いていないで、多分スーパーLですけども、やはり認定農業者の方に、はっきりとそういうことは打ち出してほしいと言っているんです。

○委員長（嶋田哲純） 答弁を求めます。

農水産課長。

○農水産課長（堀江隆夫） 確かに今、千葉県はこの農林漁業金融公庫から引き継ぎまして、政策金融公庫になりまして、農業関係の拠点長が実は千葉の支店長に就任しています。それだけ実は千葉県は借入金額が多かったと。特に多いのはこの海匝地域。特に海匝地域で多いのはこの旭市というようなことで、公庫も旭市のほうに目を向いていただきまして、月2回の資金相談等をしております。

今、委員言われましたように、ちょっと私は表現的には悪かったかもしれませんが、担保が不足していて、どうしても借りられない、そういう部分につきましては、今言われましたように、ちょっとその辺のPRをさせていただく。具体的にどういうふうにするかというのは、紙に書いて全部渡すのか、その辺は公庫との関係もあります。その辺はちょっと答えを控えさせていただきますけれども、なるべく多くの農業者の方に、担保が足りないからとって、この無利子資金をあきらめないでという部分で、それは農業者への指導等をしていきたいというふうに考えています。

さらに、今、政策金融公庫のほうから提案ありまして、どうも農地を買う方が、なかなか政策金融公庫のお金を借りていない実例が多いということなんです。調べてみますと、高い

金利を借りているとか、あるいは農機具等によりますと、いろんな販売会社のローン等を借りている。そんなことについても、農地取得あるいは農機具の取得についても、公庫とうまくいい関係で農業者への支援ができたらなということで、現在、ちょっと二つの資金については、なるべく旭市から発信して、農業者が借りやすくする。委員言いましたように、今、担保が足りないから借り入れできないとか、あるいは公庫資金は遅いとかいろいろあります。その辺問題解決におきまして、努力してまいりたいと思います。

以上です。

(「よろしくをお願いします」の声あり)

○委員長(嶋田哲純) ほかにありませんか。

平野浩委員。

○委員(平野 浩) 建設課のほうに伺いたいと思うんですけども、アクセス道ですけども、東西線は見たとおり、もうほとんどできたような感じですけども、契約が10名ということで、契約されていないのはどちらなのか。あと、非常に厳しいとか、最後に協力するかといろいろあるようですけども、これから先どのような、その方々に対して対応していくつもりなのかどうか、その辺をお願いします。

○委員長(嶋田哲純) 平野浩委員の質問に対し、答弁を求めます。

建設課長。

○建設課長(米本壽一) 10名のうち東西線何名、南北線何名、また、厳しいだとかそういう方をどういう対応かというご質問でございます。

東西線が4人おります。南北線は6人、こんな状況であります。それぞれでございますけれども、東西線はもうほとんど終わっているようには見えますけれども、相続関係でここに3人。それと厳しいと先ほど私は言いましたけれども、厳しい方も、これはまだ間に合いますので、とにかく何度も誠意を持ってお願いに行く。こういう手段でいこうと思っております。最後の方は、これは最後に協力するという方は、信じています。きっとやってくれるだろうと信じていますので、この辺のところは。

ただ、一番困るのが金額不足なんです。これは市の事業としては金額を、周りの人は契約済んで、買っちゃっていますので、おたくだけ加えますよということは、これはもう不可能です。それはずっと言わさせてもらっています。むしろこういう方のほうがちょっときついなという気はしています。

以上です。

○委員長（嶋田哲純） ほかにございませんか。

（発言する人なし）

○委員長（嶋田哲純） 特にないようでございますので、所管事項の報告を終わります。

陳情の審査

○委員長（嶋田哲純） 次に、陳情の審査を行います。

商工観光課以外は退席してください。

しばらく休憩いたします。そのまま自席でお待ちください。

休憩 午前10時45分

再開 午前10時47分

○委員長（嶋田哲純） 休憩前に引き続き会議を開きます。

去る12月8日の本会議におきまして、本委員会に付託されました陳情は、陳情第7号、「協同労働の協働組合法（仮称）」の速やかな制定を求める意見書に関する陳情の1件であります。

それでは、陳情第7号について審査に入ります。

初めに、商工観光課より参考意見がありましたら、お願いいたします。

商工観光課長。

○商工観光課長（神原房雄） 現在は経済情勢の変動によりまして、労働環境も大きく変化しております。働きたくても働けない人々が増加しておりまして、そのためにまた、フリーターやワーキングプア等が大きな社会問題になっているわけでございます。そのような中で、フリーターやワーキングプア等を含めて、働く人が新しい働き方を求めているという部分が、今回の協同労働の協働組合という団体をつくりながら、自分たちで働きやすい職場をつくっていくという部分でございます。これにつきましては雇用の促進という意味合いからも、必要な状況下であるのではないかなというふうに感じております。

働いても収入が少ないワーキングプアや、既に退職した高齢者などが働くための受け皿と

ということにもなるという期待もしております。そういうことにおいては法的根拠を明確にするというものですので、貧困対策としても今後の取り組みが注目されるということも、新聞などでも報道されております。

このような中で、働く人がともに出資し、全員参加で経営にかかわる協同労働の制度、国においても超党派の議員連名が立ち上がって、法制化の検討が始まっているということでもあります。労働や雇用の問題につきましては、国の責任において実施するものでありますけれども、現在、NPO法人、それからこういった協同労働の協同組合という、こういった形の働き方があってもいいのではないかなというふうに、担当課としては考えております。

以上です。

○委員長（嶋田哲純） どうもありがとうございました。

それでは、審査をお願いいたします。

何かございませんか。

平野浩委員。

○委員（平野 浩） 旭市議会の議員の皆様ということで、意見書採択のお願いというこういう文書をいただいて、また資料も何部か拝見させていただいた中で、少しお聞きしたいと思います。

現在の市内での活動状況、活動実態についてはあるのかなのか。また、あるとしたら何団体くらい、旭市内であるのか。それとワーカーズコープですか、それとワーカーズコレクティブとはどういう意味なのか。コープということであれば生活協同組合とか、コレクティブ、イズムとかになりますと、思想的な何か意味も関連してくるのかなというような感じもするもので、よく理解したほうがいいのかと思いますので、ひとつお願いします。

○委員長（嶋田哲純） 平野浩委員の質問に対し、答弁を求めます。

商工観光課長。

○商工観光課長（神原房雄） この問題につきましては、陳情が上がってきて初めてうちのほうも勉強したという部分もございます、はっきり言って。市内にこういった協同のというか、そういう仕事というのがあるのかということについては把握しておりません。

それから、言葉の意味ですが、ワーカーズコープ、ワーカーズコレクティブという部分ですが、ワーカーズコープにつきましては、失業者や中高年齢者が公園緑化や病院清掃業務などで働けるようにする事業団から始まり、介護・福祉関連、建物管理、環境緑化、食、農業関係、幅広い分野で活躍しているという部分で、事業規模としては組合員4万人以上、事業

高は年215億円となっております。これはあくまでもインターネット等々の中で調べたものでございますので、あとは資料という部分でございます。

ワーカーズコレクティブという部分につきましては、生協活動にかかわっている専業主婦たちの配食サービスから始まりまして、家事、介護生活支援、子育て支援、託児、塾、生協業務委託で活動しているということで、事業規模は580団体、事業高は年127億円というふうになっております。

以上です。

○委員長（嶋田哲純） ありがとうございます。

ほかにございませんか。

（発言する人なし）

○委員長（嶋田哲純） 特にないようですので、陳情第7号の審査を終わります。

しばらく休憩いたします。執行部は退席してください。大変ご苦勞さまでございました。11時までということで、休憩いたします。

休憩 午前10時53分

再開 午前11時 0分

○委員長（嶋田哲純） 休憩前に引き続き会議を開きます。

陳情の採決

○委員長（嶋田哲純） 次に、討論を省略して採決を行います。

陳情第7号、「協同労働の協同組合法（仮称）」の速やかな制定を求める意見書に関する陳情について、採択とするに賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（嶋田哲純） 全員賛成。

よって、本陳情は採択と決しました。

以上で本委員会に付託されました陳情の審査は終了いたしました。

なお、委員長報告につきましては委員長に一任願いたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長(嶋田哲純) ご異議ないようでございますので、委員長報告は委員長一任とさせていただきます。

意見書案の説明

○委員長(嶋田哲純) 続きまして、ただいま採択と決しました陳情が本会議で採択された場合、意見書提出に伴う発議案を提案することになりますので、事前に準備いたしたいと思えます。

事務局、意見書案を配布してください。

(意見書案配布)

○委員長(嶋田哲純) それでは、陳情第7号の意見書案についてご協議をお願いしたいと思います。

事務局より説明をお願いいたします。

○事務局長(宮本英一) それでは、陳情第7号の意見書案についてご説明いたします。座ったままで説明させていただきます。

お手元に配布してございます、「協同労働の協同組合法(仮称)」の速やかな制定を求める意見書案をご覧いただきたいと思います。

意見書案を朗読して、説明に代えさせていただきます。

「協同労働の協同組合法(仮称)」の速やかな制定を求める意見書(案)

現在の日本社会は年金・医療・福祉などの基本的な社会制度が疲弊し、さらに国際競争などで、労働環境にも大きな変化の波が押し寄せ、「ワーキングプア」「ネットカフェ難民」「偽装請負(派遣)」など、労働の商品化が広がり、新たな貧困層が生まれ社会問題となっています。

このようななか、「地域問題は、みずから地域で解決しよう」と様々な団体が、住みやすい地域社会の実現を目指し活動しています。これらのひとつである協同労働の協同組合は、働くことを通じて、人と人のつながりを取り戻し、コミュニティの再生をめざす活動を続け

ています。

この協同労働の協同組合は、働くものが出資し合い、全員参加の経営で、仕事を行う組織であります。国内ではワーカーズコープ、ワーカーズコレクティブ、農村女性ワーカーズ、障害者団体など、協同労働という新しい働き方を求めている団体や人々を含めると10万人以上存在すると言われてしています。

しかし、根拠法がないなど、まだまだ社会的理解が低く、これらの活動をさらに活発にしていくためには、法制度を引き続き整備していく必要があります。

世界の主要国では、働く仲間同士が協同し、主体性を高め合い、力を発揮し合う新しい働き方＝労働者協同組合についての法制度が整備されています。

だれもが「希望と誇りを持って働く」、仕事を通じて「安心と豊かさを実感できるコミュニティをつくる」、「人とのつながりや社会とのつながりを感じる」、こうした働き方と、これに基づく協同労働の協同組合は、市民事業による市民主体のまちづくりを創造するものであり、働くこと・生きることに困難を抱える人々自身が、社会連帯の中で仕事をおこし、社会に参加する道を拓くものです。

上記理由により、国において、社会の実情を踏まえ、「協同労働の協同組合法」の速やかなる制定を求めるものです。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

平成20年12月19日、千葉県旭市議会。

衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、厚生労働大臣、総務大臣、経済産業大臣あてでございます。

以上でございます。

○委員長（嶋田哲純） 事務局の説明は終わりました。

それではご協議をお願いいたします。

ご意見がございましたらお願いいたします。

（発言する人なし）

○委員長（嶋田哲純） 特にないようでございますので、陳情第7号の「協同労働の協同組合法（仮称）」の速やかな制定を求める意見書は、原案のとおりとすることよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（嶋田哲純） ご異議ないようでございますので、本意見書は原案のとおり準備を進

めたいと思います。

なお、意見書の提出に伴う発議案の提出者につきましては、委員長名で議長に提出したい
と思いますので、よろしく願いいたします。

○委員長（嶋田哲純） 以上をもちまして、審査は全部終了いたしました。

これにて本委員会を閉会いたします。

大変ご苦労さまでございました。

閉会 午前11時 7分

旭市議会委員会条例第30条第1項の規定により署名する。

旭市議会建設経済常任委員会委員長 嶋田哲純